令和7年度着手

# 県営 西田原（にしたばら）地区 土地改良事業計画書

## （ 経営体育成基盤整備事業 ）

愛　知　県

# 目　　次


第１章　目的　1
第２章　地域及び地積　1
　第１節　地域　1
　第２節　地積　1
第３章　現　況　2
　第１節　気　象　2
　　1　一般気象　2
　　2　特殊気象　3
　第２節　土地状況　4
　　1　地形、土壌及び浸食の程度　4
　　2　土地分類　4
　　3　土地利用の状況　5
　　4　土地所有の状況　5
　第３節　水利状況　6
　　1　用水状況　6
　　2　排水状況　8
　　3　河川状況　10
　第４節　道路概況　11
　第５節　地域農業の概況　13
　　1　産業別就業人口　13
　　2　経営耕地広狭別農業経営体数　13
　　3　主要家畜頭数　14
　　4　主要作物作付状況　14
　　5　農業の動向　15
　第６節　地域環境の概況　16
　　1　特に配慮すべき生物環境　16
　　2　特に配慮すべき生物以外のもの　16
第４章　一般計画　17
　第１節　事業計画の要旨　17
　　1　要旨　17
　　2　事業別面積　17
　第２節　営農計画及び土地利用計画　18
　　1　営農計画の概要　18
　　2　土地利用区分　18
　　3　作付方式　19
　　4　生産計画　20
　　5　労働改善計画　21
　　6　級地別土地利用区分　21
　　7　土地配分計画　21
　第３節　用水計画　22
　　1　計画基準年　22
　　2　計画かんがい方式　22
　　3　計画用水系統　22
　　4　計画用水量　22
　　5　水源計画　24
　第４節　排水計画　26
　　1　計画基準雨量　26
　　2　計画排水方式　26
　　3　計画排水系統　26
　　4　計画排水量　26
　　5　排水対策　26
　　6　湛水検討　28
　第５節　道路計画　28
　　1　道路及び索道　28
　　2　路線配置図　28
　第６節　農用地造成計画　30
　第７節　洪水調整計画　30
　第８節　干拓計画　30
　第９節　農用地整備計画　30
　　1　区画整理　30
　　2　暗渠排水　32
　　3　客土　32
　　4　農地保全　32
　第10節　老朽ため池改修計画　32
第５章　主要工事計画　32
　第１節　用水施設　32
　　1　貯水池　32
　　2　頭首工　32
　　3　揚水機　33
　　4　用水路　33
　　5　その他かんがい施設　33
　第２節　排水施設　33
　　1　排水水門　33
　　2　排水機　33

# 目　　次


3　排水路　33
4　その他排水施設　34
第３節　道路及び索道　34
1　道路　34
2　索道　34
第４節　農用地造成　34
第５節　洪水調整施設　34
第６節　干拓施設　34
第７節　農用地整備施設　35
1　区画整理　35
2　暗渠排水　36
3　客土　36
4　除礫　36
5　農地保全　36
第８節　老朽ため池改修施設　36
第６章　附帯工事計画　36
第７章　工事の着手及び完了の予定時期　37
1　工期　37
2　工事の年度割予定　37
第８章　環境との調和への配慮　37
1　配慮の対象　37
2　配慮の方法　37
第９章　換地計画の概要　38
第１節　換地計画を作成する上での基本的な考え方　38
第２節　換地区の設定　38
1　換地区の名称、所在、面積　38
2　換地区を設定する理由　38
第３節　換地計画樹立の基本方針　38
1　従前の土地の地積の基準　38
2　用途別予定地積　39
3　農用地集団化の方針　39
4　非農用地換地の方法　40
第４節　土地の評価及び精算の方法　40
1　評価の方法　40
2　清算の方法　40
第５節　換地計画樹立の年度計画　40
第６節　換地処分の時期に関する特則　40
第10章　事業費の総額及び内訳　41
第11章　効用　42
第12章　関連する事業　43
第13章　現況・計画平面図　43

# 第１章　目　　的

本地区は、愛知県新城市の北西部に位置し、矢作川水系一級河川中川沿いに広がる水田地帯であり、主に水稲及び牧草を中心とした営農が展開されている。

本地区の農地は、ほ場整備未実施の地区であるため区画は約10aから30aと小さく、道路幅員が狭い。また、用排分離がなされているが、排水路は土水路が大部分を占めているため排水不良が生じているとともに、用水施設の老朽化による漏水も多いため営農作業や水管理に多大な影響が出ている状況である。

本事業は、区画整理による大区画化、道路拡幅、用排水路・暗渠排水の農業生産基盤を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農業の生産性の向上及び農地中間管理機構を介して担い手への農地集積を促進し、本地域の農業経営の改善と安定を図ることを目的とする。

# 第２章　地域及び地積

## 第１節　地　　域

（第1表）

| 事　業　名 | 地　　域 |
|---|---|
| 経営体育成基盤整備事業 | 新城市作手田原及び作手中河内 |

## 第２節　地　　積

（令和７年１月現在）　（第2表）

| 現況地目 / 市町村名 | 田 (ha) | 畑 (ha) | 樹園地 (ha) | 山　林 (ha) | その他 (ha) | 計 (ha) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新城市 | 12.4 | 0.0 | 0.5 | 0.3 | 1.5 | 14.7 | 登記簿より求積 |
| 合計 | 12.4 | 0.0 | 0.5 | 0.3 | 1.5 | 14.7 | |

# 第３章　現　　況

## 第１節　　気　　象

１　一般気象

（第3表-1）

| 観測所名 | 新城 | かんがい期 | 非かんがい期 | 計又は平均 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 観測期間 | 平成3年～令和2年 | ４月～９月 | １０月～３月 | | |
| 平 均 気 温 （ ℃ ） | | 21.4 | 9.0 | 15.2 | |
| 降　水　量 | 平　均(mm) | 1,355 | 670 | 2,025 | |
| | 基準年(mm) | 727 | 630 | 1,357 | 機構営豊川用水二期事業変更計画（昭和22年）による。 |
| 降 水 日 数 | 平　均(日) | 66 | 45 | 111 | |
| | 基準年(日) | 55 | 53 | 108 | 機構営豊川用水二期事業変更計画（昭和22年）による。 |
| 根　雪　期　間 | | ー月ー日　～　ー月ー日 | | （ - 日間） | |
| 無　霜　期　間 | | 3月22日　～　11月29日 | | （ 253 日間） | 名古屋地方気象台 |
| 最　多　風　向 | | 東 | 最大風速<br>（風　向） | 18.0 m/s<br>（　東　） | 最多風向発生時期　1　月　～　12　月<br>最大風速発生年月日　平成21年10月8日 |

２　特殊気象

（第3表-2）

| 観測所名<br>新城 | 第１位 | | | 第２位 | | | 第３位 | | | 第４位 | | | 第５位 | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 観測期間<br>昭和54年　～　令和5年 | 数量 | 年 月 日 | 発生確率 | 数量 | 年 月 日 | 発生確率 | 数量 | 年 月 日 | 発生確率 | 数量 | 年 月 日 | 発生確率 | 数量 | 年 月 日 | 発生確率 | |
| 最大日雨量<br>(mm) | 419.5 | R5.6.2 | 1/432 | 315.0 | S57.8.3 | 1/64 | 232.0 | H3.9.19 | 1/12 | 225.0 | S58.8.17 | 1/11 | 224.0 | H23.9.21 | 1/10 | |
| 最大時間雨量<br>(mm) | 79.5 | R3.6.17 | 1/50 | 69.0 | R5.6.2 | 1/21 | 67.0 | H6.8.9 | 1/18 | 66.5 | R4.7.9 | 1/17 | 60.0 | H13.8.11 | 1/10 | |
| 最大４時間雨量<br>(mm) | 168.0 | S54.10.19 | 1/79 | 155.0 | R5.6.2 | 1/44 | 134.0 | H23.9.21 | 1/17 | 127.5 | R4.7.9 | 1/13 | 126.0 | H3.9.19 | 1/12 | |
| 最大連続雨量<br>(mm) | 537.5 | R3.8.12<br>～8.23 | 1/62 | 501.0 | S57.8.1<br>～8.3 | 1/42 | 463.5 | R5.5.29<br>～6.3 | 1/27 | 440.0 | R2.7.3<br>～7.11 | 1/21 | 393.0 | S57.9.8<br>～9.12 | 1/12 | |
| 最大連続干天日数<br>(日) | 40 | S61.1.5<br>～2.13 | 1/54 | 37 | H10.12.9<br>～1.14 | 1/35 | 36 | H9.10.8<br>～11.12 | 1/30 | 31 | H11.12.7<br>～1.6 | 1/14 | 31 | H21.8.12<br>～9.11 | 1/14 | |

## 第２節　　土地状況

１　地形、土壌及び浸食の程度

（第4表-1-1）

| 事業名 | 地　　目 | 田 | | | | | | 畑　・　その他 | | | | | | | | 受益地標高(m) | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 傾斜区分 | 1/1,000 以下 | 1/1,000 ～ 1/100 | 1/100 ～ 1/20 | 1/20 ～ 1/11.5 | 1/11.5 ～ 以上 | 計 | 3° 以下 | 3° ～ 8° | 8° ～15° 8° ～10° | 8° ～15° 10° ～15° | 8° ～15° 小計 | 15° ～ 20° | 20° 以上 | 計 | 最高 | 最低 | |
| 経営体育成基盤整備事業 | 面　積 (ha) | － | － | 12.4 | － | － | 12.4 | 0.5 | － | － | － | － | － | － | 0.5 | 528.7 | 520.4 | |
| | 比　率 (%) | － | － | 100 | － | － | 100 | 100 | － | － | － | － | － | － | 100 | － | － | |

（第4表-1-2）

| 項　目 ＼ 土壌統（区）名 | 土壌統（区）区分一覧表 | | | | | | | | | | 面　積(ha) | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 土壌断面 | | | | | | | | 堆積様式 | 母材 | 事　業　名 | | |
| | 色 | 腐植 | 礫層 | 酸　化 沈殿物 | 土　性 表土 一層 | 土　性 下層土 二層 | 土　性 下層土 三層 | 泥炭層 黒泥層 及び グライ層 | | | 経営体育成基盤整備事業 | 計 | |
| 伊藤統 It-1 | 黄褐 | なし | なし | 糸根、膜状 あり～含む | 壌～粘質 | 壌～粘質 | 壌～粘質 | なし | 洪積 | 非固結水成岩 | 8.2 | 8.2 | 田 |
| 菱池統 Hi-1 | 黒 | あり | なし | 糸根、膜状 なし～含む | 粘質 | 粘質 | 粘質 | 50cm以下にありまたはなし / あり / あり又はなし | 洪積 | 非固結水成岩 | 4.2 | 4.2 | 田 |
| 高雄統 Tk-1 | 灰 | あり | なし | なし | 壌～粘質 | 壌～粘質 | 壌～粘質 | なし | 洪積 | 非固結水成岩 | 0.5 | 0.5 | 畑・その他 |
| 計 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 12.9 | 12.9 | |

２　土地分類

該当なし

3　土地利用の状況

（令和７年１月現在）　（第4表-3）

| 事業名 | 土地利用別 / 市町村名 | 耕地 | | | | | | 原野 | 山林 | 採草放牧地 | その他 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 水田 (ha) | 普通畑 (ha) | 牧草地 (ha) | 果樹園 (ha) | 茶園 (ha) | その他の樹園地 (ha) | (ha) | (ha) | (ha) | (ha) | (ha) | |
| 経営体育成基盤整備事業 | 新城市 | 12.4 | 0.0 | － | 0.5 | － | － | － | 0.3 | － | 1.5 | 14.7 | |

4　土地所有の状況

（令和７年１月現在）　（第4表-4）

| 事業名 | 区分 / 所有別 | 個人有地等 | 国有地 | 県有地 | 市有地 | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営体育成基盤整備事業 | 面積（ha） | 14.0 | － | － | 0.7 | 14.7 | |
| | 受益者数（人） | 19 | － | － | － | 19 | |
| | 筆数（筆） | 185 | － | － | 61 | 246 | |
| | 権利関係 | 中間管理権 | － | － | － | － | |
| | 備考（関係戸数） | 18 | － | － | － | 18 | |

## 第３節　　水利状況

１　用水状況

用水は、一級河川中川、ため池及び渓流から取水を行っている。地区内の用水路は開水路により配水がされているが、施設の老朽化が進み配水に支障をきたしている。

（１）用水系統

（次頁　現況用水系統図参照）

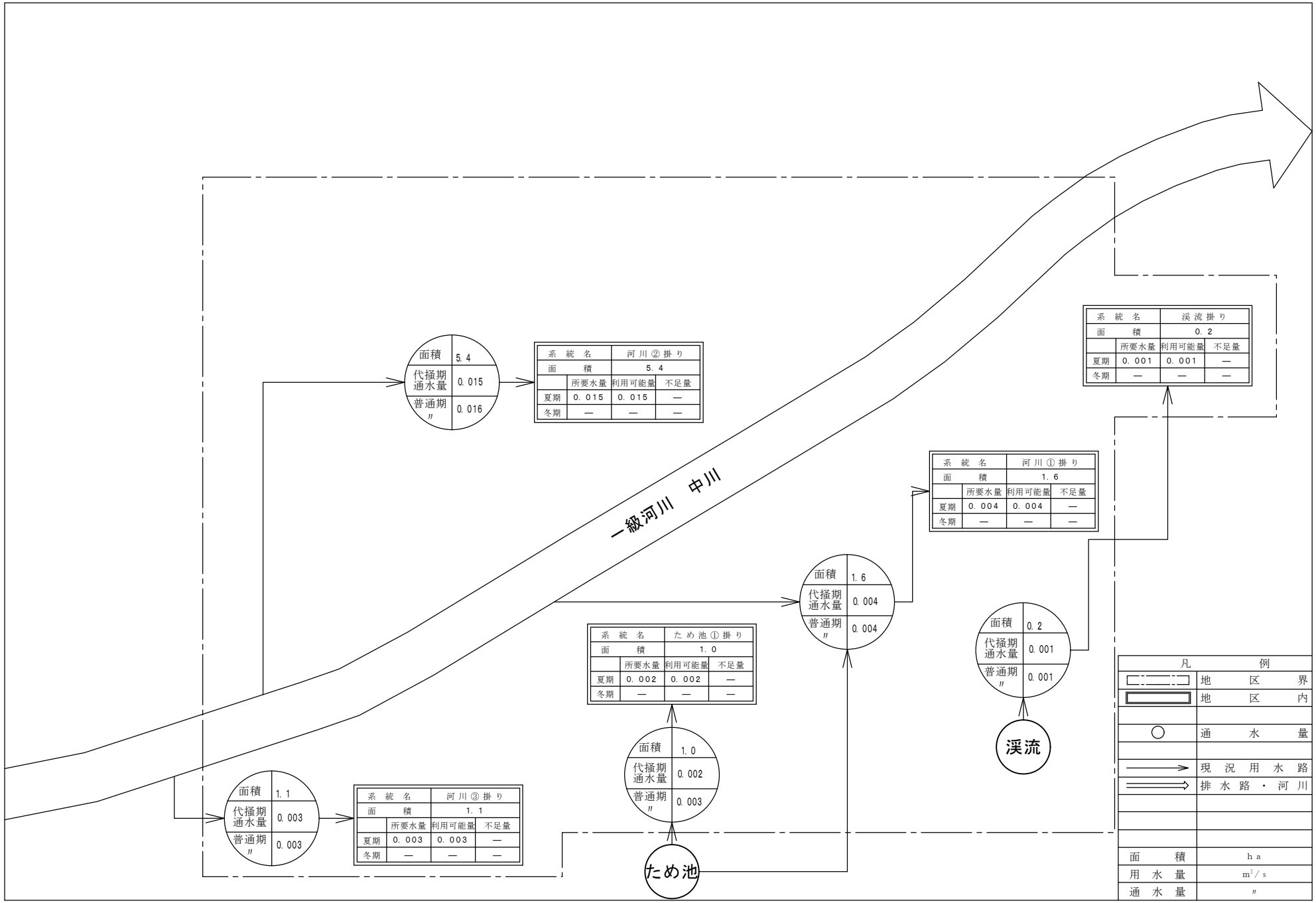
（２）用水施設

（ア）取水方法一覧表

（第5表-1）

| 事業名 | 項目 / 施設名 | かんがい面積 | | | | | | 計 | | 許可水利権 | | 慣行水利権 | | 延べ取水量 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 500ha以上 | | 100～500ha | | 100ha未満 | | | | | | | | | | |
| | | 箇所 | ha | 箇所 | ha | 箇所 | ha | 箇所 | ha | 箇所 | $m^3/s$ | 箇所 | $m^3/s$ | 箇所 | $m^3/s$ | |
| 経営体育成基盤整備事業 | 貯水池 | － | － | － | － | 1 | 1.0 | 1 | 1 | － | － | － | － | － | － | ため池 |
| | 井堰 | － | － | － | － | 3 | 8.1 | 3 | 8.1 | 2 | 0.057 | － | － | 2 | 0.057 | 一級河川中川 |
| | 自然取入口 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | |
| | 揚水機 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | |
| | その他 | － | － | － | － | 1 | 0.2 | 1 | 0.2 | － | － | － | － | － | － | 渓流 |
| | 計 | － | － | － | － | 5 | 9.3 | 5 | 9.3 | － | － | － | － | － | － | |

# 現　況　用　水　系　統　図


一級河川　中川
面積 5.4
代掻期通水量 0.015
普通期〃 0.016
系統名 河川②掛り
面積 5.4
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.015 0.015 —
冬期 — — —
面積 1.1
代掻期通水量 0.003
普通期〃 0.003
系統名 河川③掛り
面積 1.1
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.003 0.003 —
冬期 — — —
面積 1.0
代掻期通水量 0.002
普通期〃 0.003
ため池
系統名 ため池①掛り
面積 1.0
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.002 0.002 —
冬期 — — —
面積 1.6
代掻期通水量 0.004
普通期〃 0.004
系統名 河川①掛り
面積 1.6
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.004 0.004 —
冬期 — — —
面積 0.2
代掻期通水量 0.001
普通期〃 0.001
渓流
系統名 渓流掛り
面積 0.2
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.001 0.001 —
冬期 — — —
凡例
地区界
地区内
通水量
現況用水路
排水路・河川
面積 ha
用水量 m³/s
通水量 〃

（イ）改修を要する施設一覧表

（第5表-2）

| 事業名 | 項目 / 施設名 | 施設名又は箇所数 | 受益面積(ha) | 構造 | 規模 | 新設年又は更新年 | 改修を必要とする理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営体育成基盤整備事業 | 貯水池 | － | － | － | － | － | － | |
| | 井堰 | － | － | － | － | － | － | |
| | 自然取入口 | － | － | － | － | － | － | |
| | 揚水機 | － | － | － | － | － | － | |
| | 用水路 | 1 | 12.4 | 開水路 | BF－200×400<br>～BF－400×400 | 不明 | 老朽化 | |
| | その他 | － | － | － | － | － | － | |
| | 計 | 1 | 12.4 | | | | | |

（３）用水に関する被害状況

該当なし

（４）ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし

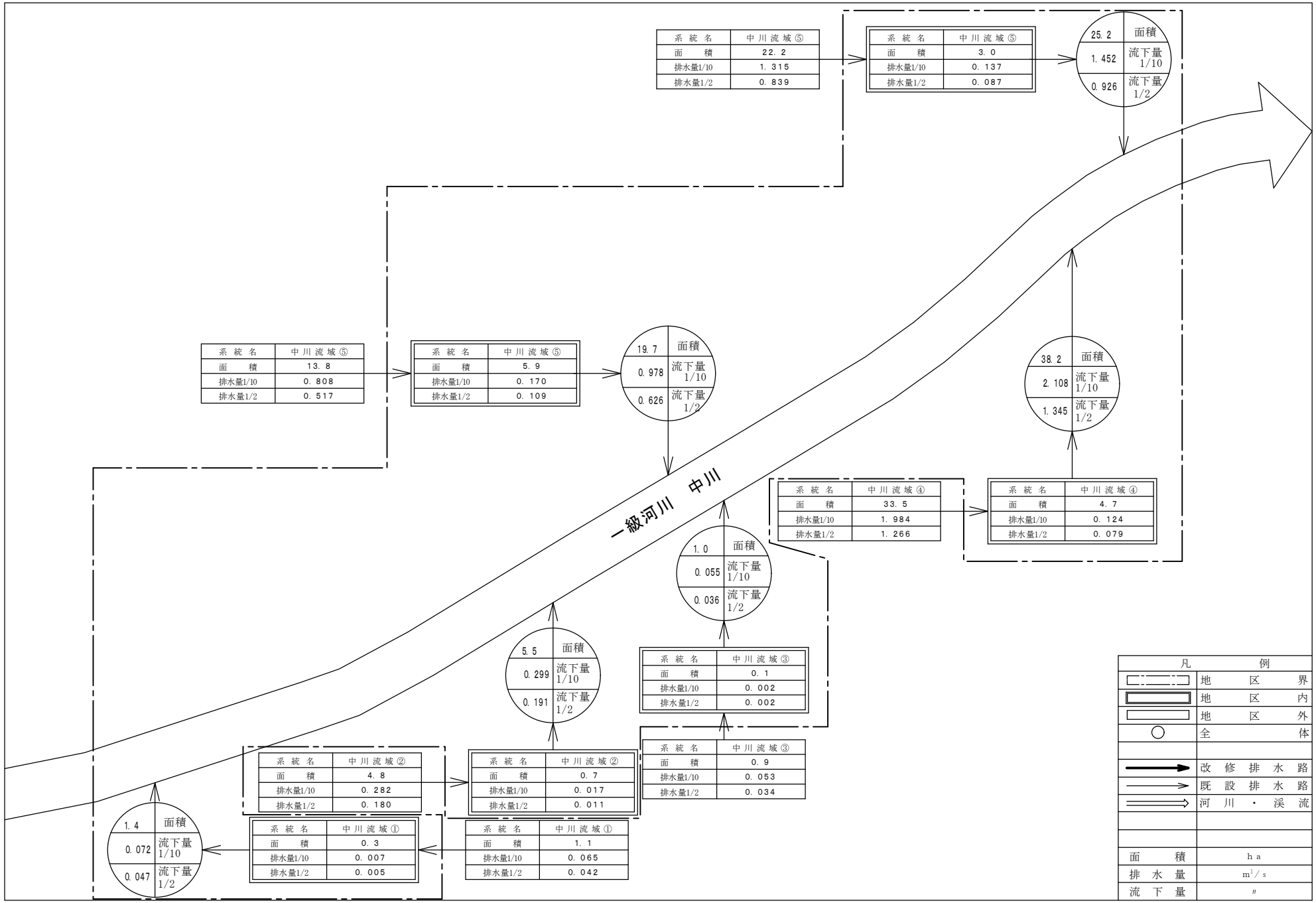
２　排水状況

排水は、一級河川中川への自然排水であるが大部分が土水路であるため、排水不良が生じ維持管理に多大な労力をきたしている。

（１）排水系統

（次頁　現況排水系統図参照）

# 現　況　排　水　系　統　図


一級河川　中川
系統名 中川流域⑤
面積 22.2
排水量1/10 1.315
排水量1/2 0.839
系統名 中川流域⑤
面積 3.0
排水量1/10 0.137
排水量1/2 0.087
25.2 面積
1.452 流下量 1/10
0.926 流下量 1/2
系統名 中川流域⑤
面積 13.8
排水量1/10 0.808
排水量1/2 0.517
系統名 中川流域⑤
面積 5.9
排水量1/10 0.170
排水量1/2 0.109
19.7 面積
0.978 流下量 1/10
0.626 流下量 1/2
38.2 面積
2.108 流下量 1/10
1.345 流下量 1/2
系統名 中川流域④
面積 33.5
排水量1/10 1.984
排水量1/2 1.266
系統名 中川流域④
面積 4.7
排水量1/10 0.124
排水量1/2 0.079
1.0 面積
0.055 流下量 1/10
0.036 流下量 1/2
系統名 中川流域③
面積 0.1
排水量1/10 0.002
排水量1/2 0.002
5.5 面積
0.299 流下量 1/10
0.191 流下量 1/2
系統名 中川流域③
面積 0.9
排水量1/10 0.053
排水量1/2 0.034
系統名 中川流域②
面積 4.8
排水量1/10 0.282
排水量1/2 0.180
系統名 中川流域②
面積 0.7
排水量1/10 0.017
排水量1/2 0.011
1.4 面積
0.072 流下量 1/10
0.047 流下量 1/2
系統名 中川流域①
面積 0.3
排水量1/10 0.007
排水量1/2 0.005
系統名 中川流域①
面積 1.1
排水量1/10 0.065
排水量1/2 0.042
凡例
地区界
地区内
地区外
全体
改修排水路
既設排水路
河川・渓流
面積 ha
排水量 m³/s
流下量 〃

（２）排水施設

（ア）排水方法一覧表

（第5表-4）

| 事業名 | 施設名 ＼ 項目 | | 排水面積 500ha以上 箇所 | 排水面積 500ha以上 ha | 排水面積 500～100ha 箇所 | 排水面積 500～100ha ha | 排水面積 100ha未満 箇所 | 排水面積 100ha未満 ha | 計 箇所 | 計 ha | 排水慣行 ($m^3/s$) | 現況排水能力 ($m^3/s$) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営体育成基盤整備事業 | 自然 | 排水路 | － | － | 1 | [14.7] 84.2 | － | － | 1 | [14.7] 84.2 | － | 4.964 | |
| | | 水門 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | |
| | 機械 | 排水機 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | |
| | | 水門及び排水機 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | |
| | | 排水路及び排水機 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | |
| | 計 | | － | － | 1 | [14.7] 84.2 | － | － | 1 | [14.7] 84.2 | － | 4.964 | |

[　]は地区内分

（イ）改修を要する施設一覧表

（第5表-5）

| 事業名 | 施設名 ＼ 項目 | | 施設名又は箇所数 | 受益面積 (ha) | 構造 | 規模 (mm) | 新設年又は更新年 | 改修を必要とする理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営体育成基盤整備事業 | 自然 | 排水路 | 1 | 12.9 | 土水路<br>U型溝 | Ⅱ型－900×600<br>～Ⅱ型900×1300 | 不明 | 土水路<br>老朽化 | |
| | | 水門 | － | － | － | － | － | － | |
| | 機械 | 排水機 | － | － | － | － | － | － | |
| | | 水門及び排水機 | － | － | － | － | － | － | |
| | | 排水路及び排水機 | － | － | － | － | － | － | |
| | 合計 | | － | 12.9 | － | － | － | － | |

（３）排水に関する被害状況

該当なし

３　河川状況

該当なし

## 第４節　　道路概況

１　道路概況

主要道路は、地区の中央部を東西に国道301号が横断しており、大半の地区内道路はこれらに接続している。地区内道路は、幅員が狭小で通行に支障を来たしているため営農に大変苦慮している。

（次頁　現況道路配置図参照）

２　主要道路一覧表

（第6表）

| NO. | 路　線　名 | 管理区分 | 延長（m） | 幅　員（m） | | 構　　造 | 改修の要否 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 全幅 | 有効 | | | |
| 1 | 国道301号 | 愛知県 | 700 | 10.0 | 10.0 | アスファルト舗装 | 否 | |

# 現況道路配置図

## 第５節　　地域農業の概況

１　産業別就業人口

（第7表-1）

| 項目 / 市町村名 | 総数（人） | 農業（人） | 林業（人） | 漁業（人） | 鉱業（人） | 建設業（人） | 製造業（人） | 電気ガス熱供給水道業（人） | 運輸通信業（人） | 卸売小売飲食店業（人） | 金融保険業（人） | 不動産業（人） | サービス業（人） | 公務（人） | その他（人） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 新城市 | 23,395 | 1,745 | 112 | 12 | 28 | 1,716 | 6,770 | 64 | 887 | 2,553 | 260 | 187 | 3,954 | 791 | 4,316 | |
| 比率(%) | 100.0 | 7.5 | 0.5 | 0.1 | 0.1 | 7.3 | 28.9 | 0.3 | 3.8 | 10.9 | 1.1 | 0.8 | 16.9 | 3.4 | 18.4 | |

（出典：令和2年国勢調査）

２　経営耕地広狭別農業経営体数

（第7表-2）

| 区分 / 市町村名 | 農業経営体数（経営体） | 経営耕地広狭別農業経営体数（経営体） | | | | | | | | | | 1経営体当り平均農用地面積(ha) | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 0.3ha未満 | 0.3～0.5ha | 0.5～1.0ha | 1.0～1.5ha | 1.5～2.0ha | 2.0～3.0ha | 3.0～5.0ha | 5.0～10.0ha | 10.0～20.0ha | 20.0ha以上 | 田 | 畑 | 樹園地 | 草地 | |
| 新城市 | 1,261 | 47 | 340 | 554 | 169 | 57 | 32 | 27 | 23 | 9 | 3 | 0.85 | 0.24 | 0.43 | 2.00 | ※端数処理の関係で比率の合計値は100%にならない |
| 比率(%) | 99.8 | 3.7 | 27.0 | 43.9 | 13.4 | 4.5 | 2.5 | 2.1 | 1.8 | 0.7 | 0.2 | 24.1 | 6.8 | 12.2 | 56.8 | |

（出典：2020年農林業センサス）

3　主要家畜頭数

（第7表-3）

| 項　目<br>市町村名 | 主要家畜 | | | | | | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 乳用牛 | | 肉用牛 | | 豚 | | 家きん | | |
| | 数量<br>（頭） | 経営体数<br>（経営体） | 数量<br>（頭） | 経営体数<br>（経営体） | 数量<br>（頭） | 経営体数<br>（経営体） | 数量<br>（100羽） | 経営体数<br>（経営体） | |
| 新城市 | 576 | 8 | 2,164 | 35 | － | － | 6,304 | 7 | 2020年農林業センサス<br>「－」は、事実のないもの。 |
| 100経営体当り数量<br>（頭、100羽） | 7,200 | | 6,183 | | － | | 90,057 | | |
| 飼養経営体数の割合(%) | 0.6 | | 2.8 | | － | | 0.6 | | |

4　主要作物作付状況

（第7表-4）

| 市町村名 | 新城市 | 作付割合<br>(%) | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 総耕地面積　(ha) | 1,344 | | |
| 区 分<br>作物名 | 作付面積<br>(ha) | | |
| 水稲 | 673 | 97.5 | 2020農林業センサス<br>作付面積は、経営耕地面積のうち販売目的作付け（栽培）した作物の類別作付（栽培）面積である。<br>「－」は、事実のないもの。<br>「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。 |
| 麦類 | 1 | 0.2 | |
| 雑穀 | 2 | 0.3 | |
| いも類 | 4 | 0.6 | |
| 豆類 | 1 | 0.1 | |
| 工芸作物 | X | X | |
| 野菜類 | X | X | |
| 果樹類 | X | X | |
| 花き類・花木 | 9 | 1.3 | |
| その他の作物 | X | X | |
| 計 | 690 | 100.0 | |

5　農業の動向

（第7表-5）

| 区分＼項目 | 農業経営体 | | | 土地 | | | 主要作物 | | | 主要家畜 | | | 地域指定等 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | B | A | | B | A | 作物名 | B | A | 家畜名 | B | A | | |
| 変化の状況（C年を一〇〇とする指数） | 農業経営体数 | 85 | 71 | 耕地 | 96 | 82 | 水稲 | X | X | 乳用牛 | 102 | 66 | 農振整備計画<br>昭和45年指定<br>昭和47年認可<br><br>特定農山村地域<br>平成5年指定<br><br>復興山村地域<br>昭和43年指定<br><br>過疎地域<br>平成17年指定<br><br>果樹濃密団地<br>平成18年指定<br>なし、うめ<br>かき、ぶどう<br>いちじく<br>うんしゅうみかん<br>キウイフルーツ<br><br>酪肉近代化<br>平成18年指定 | A：令和２年<br>（2020年）<br>B：平成27年<br>（2015年）<br>C：平成22年<br>（2010年）<br>農業ｾﾝｻｽ値<br><br>－：事実のないもの<br><br>X：統計数値が公表されていないために指数を求められないもの |
| | 個人経営体数 | 85 | 70 | 田 | 100 | 87 | 麦類 | X | X | 肉用牛 | X | 141 | | |
| | 団体経営体(法人)数 | 131 | 138 | 畑 | 92 | 68 | 野菜類 | X | X | 豚 | X | - | | |
| | 団体経営体(非法人)数 | 57 | 143 | 樹園地 | 84 | 79 | 花き類 | X | 28 | 採卵鶏 | 424 | X | | |
| | | | | | | | 果樹 | X | X | | | | | |
| 変化の理由 | 他産業への転職、高齢化に伴う離農により減少傾向にあるが、個人経営体数の減少の影響により団体経営体数は増加傾向にある。 | | | 農家の高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加等で減少傾向にある。 | | | 花き類については、農業経営体の減少、農地の減少等により減少傾向である。それ以外については数値が公表されておらず、変化の状況が把握できない。 | | | 農業者の高齢化が進んでいるため、乳用牛・豚は減少傾向にあるが、平成22年の家畜数の減少の影響から肉用牛と鶏卵鶏は増加傾向にある。 | | | | |

（出典:2010年,2015年,2020年農林業センサス）

## 第６節　　地域環境の概況

新城市は愛知県の東部、東三河地域の中央部に位置し、東を静岡県、西を岡崎市と豊川市、南を豊橋市、北を豊田市、設楽町及び東栄町に接している。北部は三河山間部を形成する豊かな緑に覆われるとともに、宇連ダム・大島ダムを抱え、東三河一帯の水源涵養の役割を果たしている。

市域の約９割が農地・森林であり、豊川・矢作川水系の本流とその小河川とで水と緑のネットワークが形成されており、野生生物は多様であるが全体的に生息空間は減少傾向のため、住民への理解推進や山・農・水空間の保全、森林整備が求められている。

また、不法投棄、害虫等の発生、大気汚染（野焼き）の割合が高くなっていることから未然防止が求められているほか、生活排水対策として公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽などの普及を進め水質保全を図っていく必要がある。

農地の現状としては、昭和30年代に農業構造改善事業等で整備してきたが高齢化の進行・水利施設の老朽化等が進んでおり、山間地ではさらに鳥獣被害により生産意欲が低下している状況であるため、担い手農家への農地流動化が図られるよう農業生産基盤の整備や農林業公社しんしろを核とした山間地農業での担い手の確保が求められている。

### １　特に配慮すべき生物環境（植物、植生、動物）

#### (1)植物

旧作手村の森林の９割弱をスギ・ヒノキ等の人工林が占め、その他としてマツ・ブナ・コナラ等が見られる。また、旧作手村には湿原が多く、そこにはサワラン・サギソウ・トキソウ等のめずらしい種類の植物が自生している。

#### (2)動物

魚類は、巴川などの大川には、アマゴ・カマツカ・ヨシノボリ等がおり、高里あたりの中流には、カワムツ・アブラハヤ・オイカワ・フナ・ドジョウ等、小川には、メダカ・シマドジョウ・ホトケドジョウ等が生息している。このほか、長ノ山湿原ではヒメダカを見ることができる。

昆虫類・両生類は、モンシロチョウ・ウスバシロチョウ、県内ではほとんどみられらくなったヒメヒカゲ等の蝶類、日本最小のハッチョウトンボ、めずらしいグンバイトンボ等のトンボ類が多く見られる。県の天然記念物のヒメタイコウチも生息している。

また動物については、山が多いため大小様々な動物が生息しており、イノシシ・シカ・サル・ハクビシン等が挙げられる。

鳥類は、ツバメ・ホトトギス・コノハズク・カッコウ・ウグイス・ギジなど30種類以上が見られる。

### ２　特に配慮すべき生物以外のもの（景観・文化財他）

市域の約３割が天竜奥三河・愛知高原国定公園、本宮山・桜淵県立自然公園に指定されるなど、四季折々に自然を満喫できる景勝地や温泉施設にも恵まれ、東海地方一円の身近な観光地として親しまれている。さらに豊川をはじめとする清流や山並み、四谷の千枚田をはじめとした田園風景などの身近な自然環境は、市民に潤いに満ちた居住環境を与えるとともに、多様な文化や産業発展の基礎となっている。

# 第４章　一般計画

## 第１節　　事業計画の要旨

１　要旨

本事業は、区画整理による大区画化、道路拡幅、用排水路及び暗渠排水を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農業の生産性の向上及び農地中間管理機構を介して担い手への農地集積を促進し、本地域の農業経営の改善と安定を図ることを目的とする。

２　事業別面積

（第8表）

| 事業名<br>土　地<br>利用区分<br>事業目的 | 経営体育成基盤整備事業 | | | | | | 計 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 水田<br>(ha) | 普通畑<br>(ha) | 牧草地<br>(ha) | 果樹園<br>(ha) | その他<br>(ha) | 小計<br>(ha) | (ha) | |
| 区画整理 | 11.0 | 0.0 | － | 0.4 | 3.3 | 14.7 | 14.7 | 計画平面図より求積 |
| 計 | 11.0 | 0.0 | － | 0.4 | 3.3 | 14.7 | 14.7 | |

## 第２節　　営農計画及び土地利用計画

１　営農計画の概要

計画の標準区画を30a～50a（50m×60m～50m×100m）とし、農地中間管理権を利用して担い手への農地集積集団化を図り、担い手農家による大型機械の利用による低コスト営農を確立し、農業経営の安定を図るものとする。

事業後の土地利用区分は、田11.0ha、樹園地等0.4haの計11.4haを計画する。本地区の担い手の営農類型は、「水稲・牧草及びブルーベリー」であり、地域の特性を生かした農業発展を目指す。

２　土地利用区分

（第9表-1）

| 事業名 | 土地利用区分 / 区分 | 水　田 (ha) | 普通畑 (ha) | 牧草地 (ha) | 果樹園 (ha) | 茶　園 (ha) | その他 (ha) | 小　計 (ha) | 原　野 (ha) | 山　林 (ha) | その他 (ha) | 計 (ha) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営体育成基盤整備事業 | 現況 | 12.4 | 0.0 | － | 0.5 | － | － | 12.9 | － | 0.3 | 1.5 | 14.7 | |
| | 計画 | 11.0 | 0.0 | － | 0.4 | － | － | 11.4 | － | 0.2 | 3.1 | 14.7 | |

3　作付方式

（第9表-2）

| 事業名 | 項目 | 経営類型 | 土地利用区分 | 1年目 | | | | | | | | | | | | 2年目 | | | | | | | | | | | | 3年目 | | | | | | | | | | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| 経営体育成基盤整備事業 | 現況 | 水稲 | 水田 | | | ○ | △ | | | | | × | × | | | | | ○ | △ | | | | | × | × | | | | | ○ | △ | | | | | × | × | | | ○・・・播種<br>△・・・定植<br>×・・・収穫 |
| | | 牧草 | 水田 | | | | ○ | | | | | | × | | | | | | ○ | | | | | | × | | | | | | ○ | | | | | | × | | | |
| | | ﾌﾞﾙｰﾍﾞﾘｰ | 樹園地 | | | | | | | | × | | | | | | | | | | | | × | | | | | | | | | | | | × | | | | |
| | 計画 | 水稲 | 水田 | | | ○ | △ | | | | | × | × | | | | | ○ | △ | | | | | × | × | | | | | ○ | △ | | | | | × | × | | | |
| | | 牧草 | 水田 | | | | ○ | | | | | | × | | | | | | ○ | | | | | | × | | | | | | ○ | | | | | | × | | | |
| | | ﾌﾞﾙｰﾍﾞﾘｰ | 樹園地 | | | | | | | | × | | | | | | | | | | | | × | | | | | | | | | | | | × | | | | |

4　生産計画

（第9表-3）

| 事業名 | 項目 / 土地利用区分 | | 作物名 | 作付面積 (ha) 現況 | 計画 | 増減 | 作付率 (%) 現況 | 計画 | 単位面積当たり 収量 (kg/10a) 現況 | 計画 | 増減 | 生産量 (t) 現況 | 計画 | 増減 | 同左生産量増減の内訳 (t) 面積増減 | 単位面積当り収量増加 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営体育成基盤整備事業 | 水田 | 表作 | 水稲 | 8.2 | 7.6 | △0.6 | 74 | 72 | 489 | 621 | 132 | 40.1 | 47.2 | 7.1 | △2.9 | 10.0 | |
| | | | 牧草 | 2.5 | 2.5 | － | 23 | 24 | 4,313 | 8,108 | 3,795 | 107.8 | 202.7 | 94.9 | － | 94.9 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 樹園地 | 春夏作 | ﾌﾞﾙｰﾍﾞﾘｰ | 0.3 | 0.4 | 0.1 | 3 | 4 | 206 | 319 | 113 | 0.6 | 1.3 | 0.7 | 0.3 | 0.4 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 計 | | | [ 11.0 ] 11.0 | [ 10.5 ] 10.5 | [ △0.5 ] △ 0.5 | 100 | 100 | | | | | | | | | |

＊作付面積欄の計で[　]内は実面積、外は延作付面積
＊作付面積は本地面積

5　労働改善計画

（第9表-4）

| 事業名 | 項目 / 土地利用区分 | 作物名 | 作付面積 (ha) | 単位面積当り労働投下量(hr/10a) | | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 区分 | 現況 | 計画 | 増減 | |
| 経営体育成基盤整備事業 | 水田 | 水稲 | 7.6 | 人　力 | 39.2 | 14.8 | △ 24.4 | 作付面積 |
| | | | ［ 8.2 ］ | 機械力 | 16.1 | 3.4 | △ 12.7 | 上段：　計画 |
| | | 牧草 | 2.5 | 人　力 | 19.6 | 6.2 | △ 13.4 | 下段：［現況］ |
| | | | ［ 2.5 ］ | 機械力 | 14.0 | 2.8 | △ 11.2 | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | △は減を示す。 |
| | 計 | | 10.1<br>［ 10.7 ］ | | | | | |

6　級地別土地利用区分

該当なし

7　土地配分計画

該当なし

## 第３節　　用水計画

１　計画基準年

昭和２２年　．．．．．．．．．機構営豊川用水二期事業変更計画に準ずる。

２　計画かんがい方式

かんがい方式

水田　．．．．．．．．．．．．開水路による貯留かんがい方式

かんがい期間

水田（特早期）　．．．．．．．４月２１日～８月３０日（代掻１５日間）

３　計画用水系統

（次頁　計画用水系統図　参照）

４　計画用水量

（１）かんがい用水

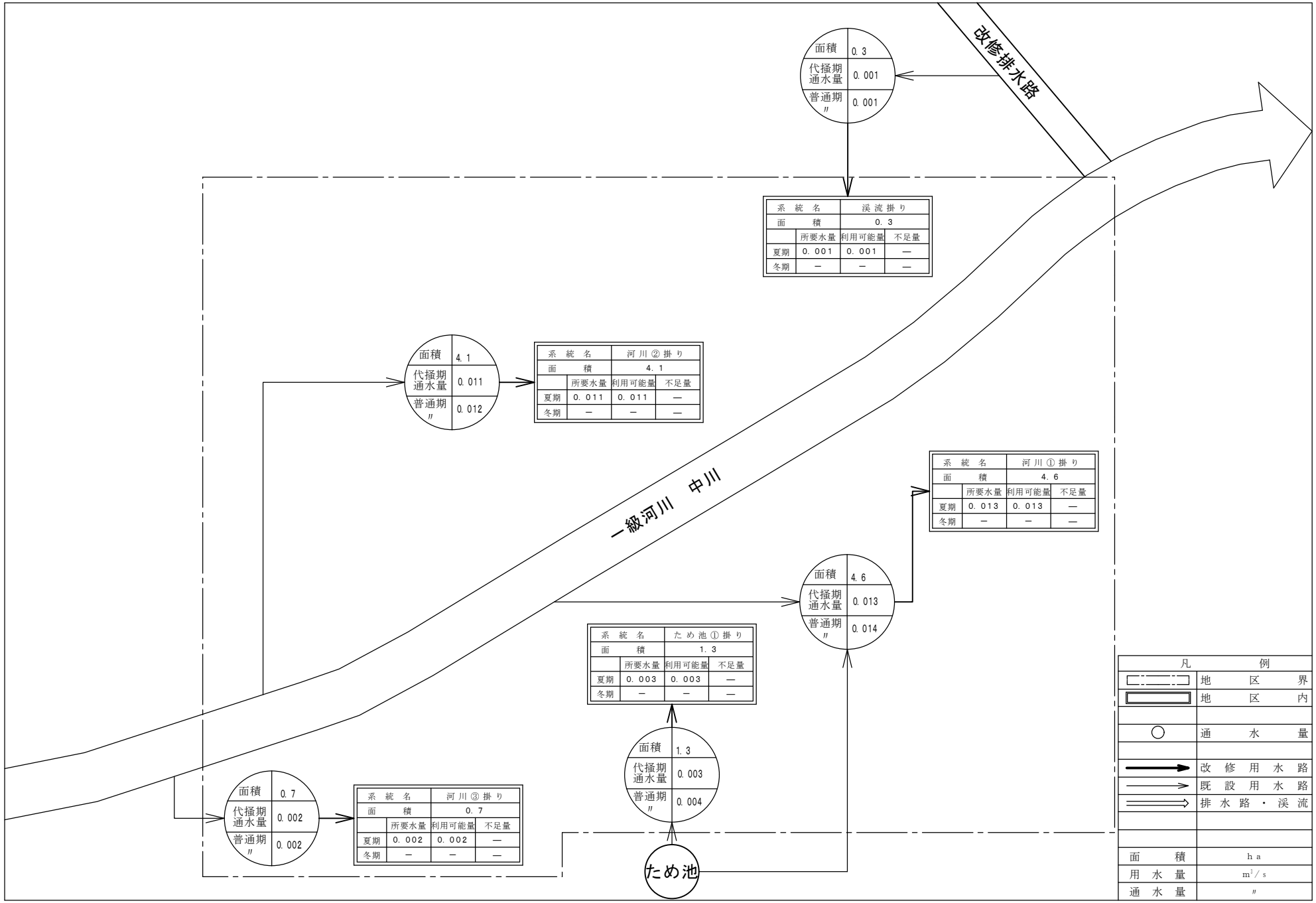
（第10表-1-1）

| 項目 / 系統名 | 種別 | 面積(ha) 事業名 | | 水田かんがい | | | 水田畑利用 | | | 畑地かんがい | | | その他 | | 消費水量 | 損失率 | 粗用水量 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 経営体育成基盤整備事業 | 計 | 普通期 計画平均単位用水量 (mm/日) | 代掻期 計画代掻単位用水量 (mm/日) | 面積 (ha) | 1日当り計画平均かん水深 (mm/日) | 平均間断日数 (日) | 面積 (ha) | 1日当り計画平均かん水深 (mm/日) | 平均間断日数 (日) | 面積 (ha) | 計画平均単位用水量 (mm/日) | 面積 (ha) | (m³/s) | (%) | 平均 (m³/s) | 最大 (m³/s) | |
| 西田原 | 農業用水 | 11.0 | 11.0 | 17.7 | 100.0 | 11.0 | － | － | － | － | － | － | － | － | 0.026 | 15 | 0.026 | 0.030 | |

（２）営農飲雑用水

該当なし

# 計　画　用　水　系　統　図


改修排水路
面積 0.3
代掻期通水量 0.001
普通期〃 0.001
系統名 渓流掛り
面積 0.3
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.001 0.001 —
冬期 — — —
面積 4.1
代掻期通水量 0.011
普通期〃 0.012
系統名 河川②掛り
面積 4.1
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.011 0.011 —
冬期 — — —
一級河川　中川
系統名 河川①掛り
面積 4.6
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.013 0.013 —
冬期 — — —
面積 4.6
代掻期通水量 0.013
普通期〃 0.014
系統名 ため池①掛り
面積 1.3
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.003 0.003 —
冬期 — — —
面積 1.3
代掻期通水量 0.003
普通期〃 0.004
ため池
面積 0.7
代掻期通水量 0.002
普通期〃 0.002
系統名 河川③掛り
面積 0.7
所要水量 利用可能量 不足量
夏期 0.002 0.002 —
冬期 — — —
凡例
地区界
地区内
通水量
改修用水路
既設用水路
排水路・渓流
面積 ha
用水量 m³/s
通水量 〃

5　水源計画

（1）水利用計画

（第10表-2）

| 区分＼項目 | | 消費水量 | 有効雨量 | 純用水量 | 粗用水量 | 現況利用可能水量 | | | 不足水量 | | 水源依存量 | | 水源工種 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 水源名 | 取水地点利用可能量 | ほ場利用可能量 | 純不足水量 | 全不足水量 | 水源名 | 水量 | | |
| | | a（千m³） | b（千m³） | c=a-b（千m³） | d=c/(1-α)（千m³） | | e（千m³） | f（千m³） | g=c-f（千m³） | h=d-e（千m³） | | （千m³） | | 損失率：α |
| （事業名） | 経営体育成基盤整備事業 | 209.3 | 31.1 | 178.2 | 209.6 | 中川 | 209.6 | 178.2 | － | － | 中川 | 209.6 | 既設利用 | α=15% |
| | | 6.7 | 1.0 | 5.7 | 5.7 | 渓流 | 5.7 | 5.7 | － | － | 渓流 | 5.7 | 既設利用 | α=15% |
| | | 28.9 | 4.3 | 24.6 | 28.9 | ため池 | 28.9 | 24.6 | － | － | ため池 | 28.9 | 既設利用 | α=15% |
| 計 | | 244.9 | 36.4 | 208.5 | 244.2 | | 244.2 | 208.5 | | | | 244.2 | | |

（2）用水対策

（ア）貯水池

該当なし

（イ）井堰及び自然取入口

該当なし

（ウ）揚水機

該当なし

（エ）用水路

（第10表-6）

| 項　目<br>名　称 | かんがい面積(ha)<br>事　業　名 | | 最大通水量<br>($m^3/s$) | 延　長<br>(km) | 構　造 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 経営体育成<br>基盤整備事業 | 計 | | | | |
| 支線用水路 | 11.0 | 11.0 | 0.039 | 1.8 | 開水路 | ベンチフリューム |

（オ）その他の水源施設

該当なし

（３）水質水温

該当なし

## 第４節　　排水計画

１　計画基準雨量

日雨量　　256.3mm/日（1/10年確率）．．．．．．作手(高里)観測所（1899年～2023）の
既往125年間の観測記録から岩井法により確率雨量を求める。
Ｒ24 = 261.0mm/日　　Ｒ4 = 106.6mm/4hr

２　計画排水方式

自然排水　　．．．　４時間雨量・４時間排除

３　計画排水系統

（次頁　計画排水系統図　参照）

４　計画排水量

（第11表-1）

| 項目 / 排水系統名 | 受益面積(ha) 事業名 経営体育成基盤整備事業 | 受益面積(ha) 計 | 流域面積($km^2$) 山地 | 流域面積($km^2$) 平地 | 基準雨量(mm) 4時間雨量 4時間排除 | 降雨による直接単位流出量($m^3/s/km^2$) 山地 | 降雨による直接単位流出量($m^3/s/km^2$) 平地 上段:水田・畑 下段:その他 | 基底流出量($m^3/s/km^2$) 山地 | 基底流出量($m^3/s/km^2$) 平地 | 全排水量($m^3/s$) 山地 | 全排水量($m^3/s$) 平地 自然排水 | 全排水量($m^3/s$) 平地 機械排水 | 単位排出量($m^3/s/km^2$) 山地 | 単位排出量($m^3/s/km^2$) 平地 上段:水田・畑 下段:その他 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 西田原 | 11.4 | 11.4 | 0.759 | 0.151 | 106.6 | ― | 2.417(3.701)<br>4.442 | ― | ― | ― | 4.986 | ― | ― | 2.417(3.701)<br>4.442 | |

５　排水対策

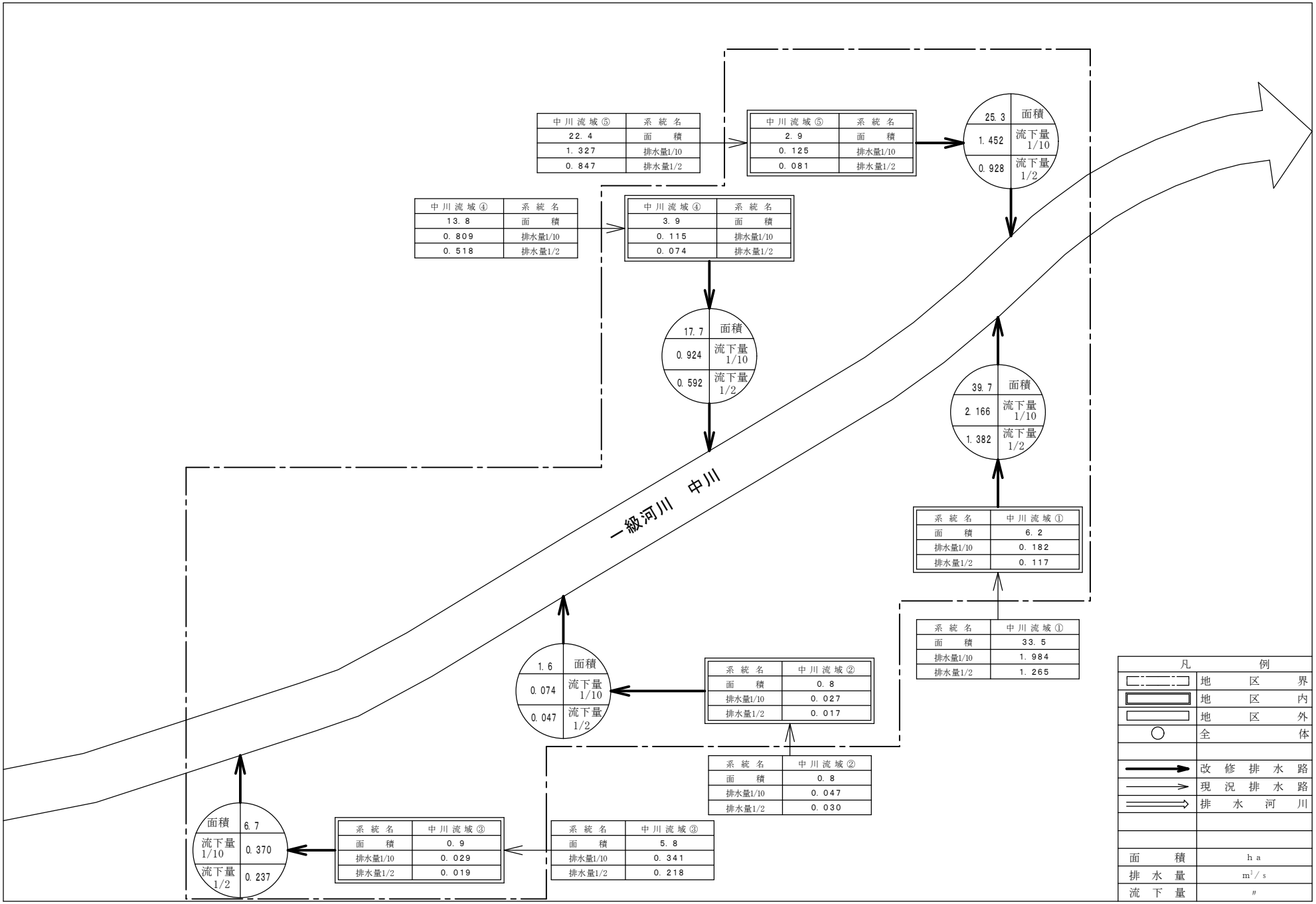
（１）排水水門

該当なし

（２）排水機

該当なし

# 計　画　排　水　系　統　図


中川流域⑤ 系統名
22.4 面積
1.327 排水量1/10
0.847 排水量1/2
中川流域⑤ 系統名
2.9 面積
0.125 排水量1/10
0.081 排水量1/2
25.3 面積
1.452 流下量 1/10
0.928 流下量 1/2
中川流域④ 系統名
13.8 面積
0.809 排水量1/10
0.518 排水量1/2
中川流域④ 系統名
3.9 面積
0.115 排水量1/10
0.074 排水量1/2
17.7 面積
0.924 流下量 1/10
0.592 流下量 1/2
39.7 面積
2.166 流下量 1/10
1.382 流下量 1/2
一級河川　中川
系統名 中川流域①
面積 6.2
排水量1/10 0.182
排水量1/2 0.117
系統名 中川流域①
面積 33.5
排水量1/10 1.984
排水量1/2 1.265
1.6 面積
0.074 流下量 1/10
0.047 流下量 1/2
系統名 中川流域②
面積 0.8
排水量1/10 0.027
排水量1/2 0.017
系統名 中川流域②
面積 0.8
排水量1/10 0.047
排水量1/2 0.030
面積 6.7
流下量 1/10 0.370
流下量 1/2 0.237
系統名 中川流域③
面積 0.9
排水量1/10 0.029
排水量1/2 0.019
系統名 中川流域③
面積 5.8
排水量1/10 0.341
排水量1/2 0.218
凡例
地区界
地区内
地区外
全体
改修排水路
現況排水路
排水河川
面積 ha
排水量 m³/s
流下量 〃

（３）排水路

（第11表-4）

| 項目 / 名称 | 流域面積 (km²) | 受益面積(ha) 事業名 経営体育成基盤整備事業 | 受益面積(ha) 事業名 計 | 計画排水量 (m³/s) | 延長 (km) | 構造 | 排水本川 名称 | 排水本川 計画洪水量 (m³/s) | 排水本川 計画洪水位 (m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 支線排水路 | 0.151 | 11.4 | 11.4 | 4.986 | 2.7 | 組立柵渠Ⅱ型 | － | － | － | 改修 |

（４）その他

該当なし

６　湛水検討

該当なし

## 第５節　　道路計画

１　道路及び索道

（１）道路

（第12表-1）

| 路線名 / 項目 | 幅（有効） (m) | × | 延長 (km) | 構造 | 既設道路との関係 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 支線道路 | 3.5　(2.5) | × | 0.8 | 砂利舗装 | 国道への連絡 | 区画整理 |
| 支線道路 | 5.0　(4.0) | × | 0.7 | 砂利舗装 | 国道への連絡 | 区画整理 |

（２）索道

該当なし

２　路線配置図

（次頁　計画道路配置図　参照）

# 計画道路配置図

## 第６節　　農用地造成計画

該当なし

## 第７節　　洪水調整計画

該当なし

## 第８節　　干拓計画

該当なし

## 第９節　　農用地整備計画

１　区画整理

本地区の農地は、未整備であるため区画は約10aから30aと小さく、道路幅員が狭い。また、用排分離がなされているが排水路は大部分が土水路であるため、水管理に多大な労力を要しているとともに、老朽化により排水に支障をきたしている。このため、区画整理により、標準区画30a～50a（50m×60m～50m×100m）を基本とする区画整理を行い、大型機械の導入及び農地の集団化を図る。

（１）区画の形状

（第16表-1）

| 長辺 × 短辺 (m) | | 区画面積 (ha) | 全体面積 (ha) | 割　合 (%) | 田面差 (m) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 水田 | 50×100 | 0.5～ | 3.5 | 30 | － | |
| | 50×60～50×100 | 0.3～0.5 | 5.5 | 48 | － | |
| | ～50×60 | ～0.3 | 2.0 | 18 | － | |
| 樹園地 | ～50×60 | ～0.3 | 0.4 | 4 | － | |
| 計 | | | 11.4 | | | |

（２）表土扱い

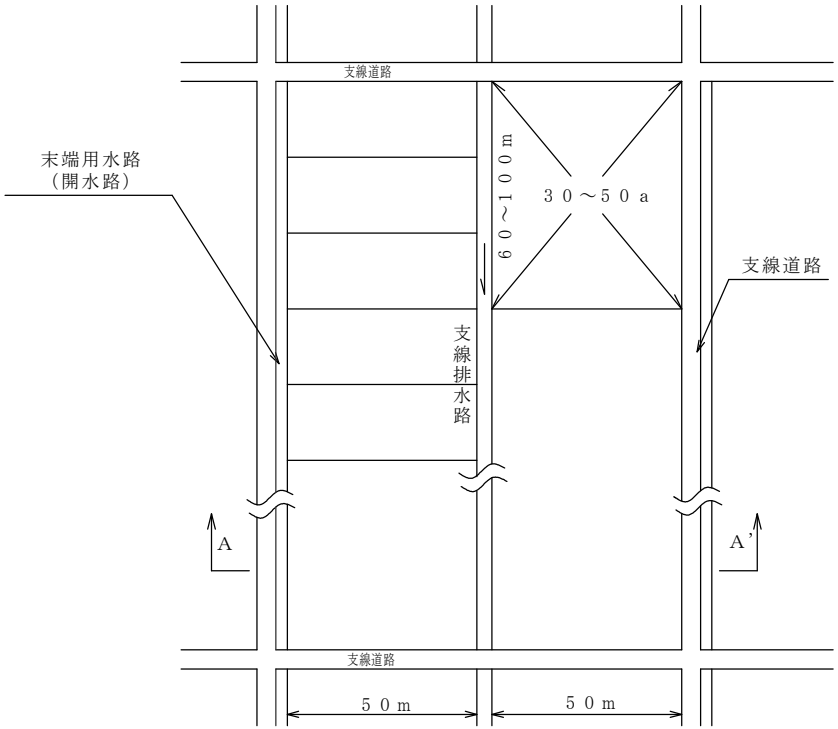
| 面積 (ha) | 表土扱い要否の理由 | 扱い深 (cm) | 土量 (・) | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 11.4 | 高低差10cm以上 | 15 | 14,400 | |

（３）末端道水路配置図

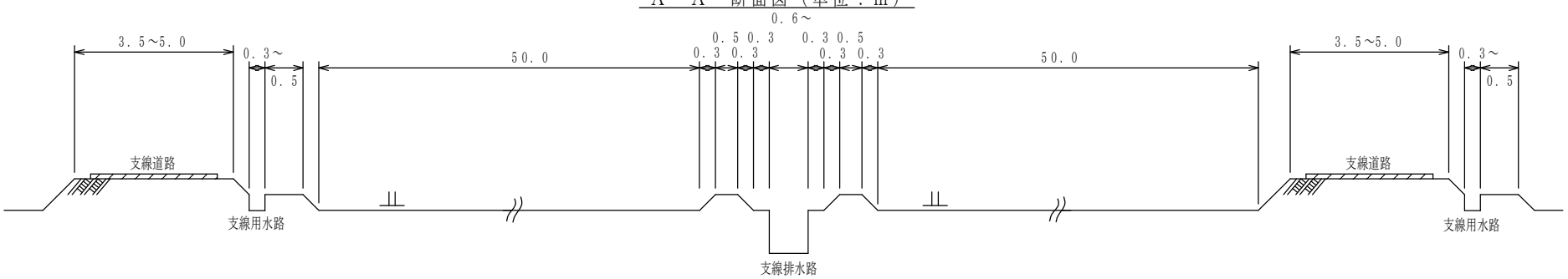
（次頁　末端道水路配置図参照）

# 末端道水路配置図

標 準 区 画（水田）




Ａ－Ａ’断面図（単位：ｍ）



２　暗渠排水

該当なし

３　客　土

該当なし

４　農地保全

該当なし

### 第10節　　老朽ため池改修計画

該当なし

## 第５章　主要工事計画

### 第１節　　用水施設

１　貯水池

該当なし

２　頭首工

該当なし

3　揚水機

該当なし

4　用水路

（第17表-4）

| 項　目<br>区　分 | かんがい面積(ha)<br>事業名<br>経営体育成基盤整備事業 | 計 | 通水量<br>($m^3/s$) | 延長(km)<br>開きょ | トンネルその他 | 計 | 構造 | 勾配 | 主要構造物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 支線用水路 | 11.0 | 11.0 | 0.001～0.039 | 1.8 | － | 1.8 | ベンチフリューム | 1/300 | － | 改修 |

5　その他かんがい施設

該当なし

## 第２節　　排水施設

1　排水水門

該当なし

2　排水機

該当なし

3　排水路

（第18表-3）

| 項　目<br>区　分 | 受益面積(ha)<br>事業名<br>経営体育成基盤整備事業 | 計 | 排水量<br>($m^3/s$) | 延長(km)<br>開きょ | トンネルその他 | 計 | 構造 | 勾配<br>(%) | 主要構造物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 支線排水路 | 11.4 | 11.4 | 4.986 | 2.7 | ― | 2.7 | 組立柵渠Ⅱ型 | 1/1000～1/100 | － | 改修 |

４　その他排水施設

該当なし

## 第３節　　道路及び索道

１　道　路

（１）道路の総括表

（第19表-1）

| 項目<br>路線名 | 路線名 | 幅（有効）×延長<br>(m)　　(km) | 構　造 | 付帯構造物 | | | 最　急<br>こう配<br>(%) | 同左の<br>延　長<br>(m) | 最　小<br>曲線半径<br>(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 名称 | 構造 | 数量<br>(箇所) | | | | |
| 支線道路 | 6路線 | 3.5　(2.5)　×　0.8 | 砂利舗装 | - | - | - | 8%以内 | 784 | - | |
| 支線道路 | 1路線 | 5.0　(4.0)　×　0.7 | 砂利舗装 | - | - | - | 8%以内 | 756 | - | |

（２）道路主要構造物

該当なし

２　索　道

該当なし

## 第４節　　農用地造成

該当なし

## 第５節　　洪水調整施設

該当なし

## 第６節　　干拓施設

該当なし

## 第７節　　農用地整備施設

１　区画整理

（１）区画整理

（第23表-1）

| 工区名 | 面積(ha) | 整地工 | | 表土扱い | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 標準区画 | 土量(㎥) | 面積（ha） | 土量(㎥) | |
| 西田原 | 3.5 | 50×100 | 22,248 | 2.8 | 4,200 | 水田 |
| | 5.5 | 50×60～50×100 | 23,922 | 5.6 | 8,400 | 水田 |
| | 2.0 | ～50×60 | 6,443 | 1.2 | 1,800 | 水田 |

（２）末端用水路等

該当なし

（３）末端道水路配置図

該当なし

2　暗渠排水

| 項目<br>区分 | 面積（ha）<br>事業名<br>経営体育成基盤整備事業 | 計 | 土壌統（区）分 | 基準雨量<br>(mm/日) | 単位排水量<br>(ℓ/s/ha) | 計画後の<br>地下水位<br>(m) | 集水渠出口<br>以下の<br>排水方式 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 本暗渠 | 1.1 | 1.1 | Hi-1 | 106.6 | 3.47 | 0.9 | 自然排水 | |

3　客土

該当なし

4　除礫

該当なし

5　農地保全

該当なし

## 第８節　　老朽ため池改修施設

該当なし

# 第６章　附帯工事計画

用地買収及び補償費

(1)用地買収

該当なし

(2)補償費

電柱移設・・・・・・・・ 10 本

市水道管移設・・・・・ 2 箇所

# 第７章　工事の着手及び完了の予定時期

１　工　期　　着　　手　　令和7年度
　　完了予定　　令和12年度　（予定）

２　工事の年度割予定

| 工種＼年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 区　画　整　理 | | | | | | | |
| | | | | | | | |

# 第８章　環境との調和への配慮

１　配慮の対象

　地区内の排水路及び取水源であるため池・河川には、ドジョウ、アカザ、スナヤツメ類、モリアオガエル、アカハライモリ等の生息が確認されており、良好な生物生息空間が確保されているため、生息環境の保全に配慮していくものとする。

２　配慮の方法

　地区は、新城市(旧作手村)田園環境整備マスタープランにおいて環境配慮区域となっており、地区内の排水路及び周辺には、多くの生物が見られ、良好な生物生息空間が確保されている。
そのため、施工時期は保全対象生物が少ない時期を選ぶこととし、また、濁水及び土砂流出の防止を図ることによって周辺環境に配慮する。

# 第９章　換地計画の概要

## 第１節　　換地計画を作成する上での基本的な考え方

生産基盤整備事業による高生産性農業が見込まれる大規模農地を整備することにより、将来の農業生産を担う経営体への農用地利用集積を積極的に進め、土地利用の合理化を図る換地計画を作成するものとする。

## 第２節　　換地区の設定

１　換地区の名称、所在、面積

（第25表-1）

| 換地区名 | 換地区の所在地 | 面積（ha） |
|---|---|---|
| 西田原 | 新城市作手田原・作手中河内地内 | 14.7 |

２　換地区を設定する理由

該当なし

## 第３節　　換地計画樹立の基本方針

１　従前の土地の地積の基準

（第25表-2）

| 換地区名 | 地　積　の　基　準 |
|---|---|
| 西田原 | 換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画確定の日の登記簿地積とする。ただし、土地改良事業計画確定の日から６か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接地所有者の同意書を添付して作手村土地改良区へ申出があった場合は、その申出のあった地積とする。この場合、測量等にかかる費用は本人負担とする。 |

2　用途別予定地積

（単位：ha）　（第25表-3）

| 換地区名 | 用途（取得予定者）／前後 | 非農用地区域外に換地する土地 | | | | | | | | | | | | 非農用地区域に換地する土地 | | | | | | | | | | 機能交換に係る土地 | | | | 一般国公有地 | 総合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 田 | 畑 | 山林・原野 | その他 | 通常事業施行地域に含める土地（令第1条の9( )書き） | | | 計 | 本事業によって生ずる土地改良施設用地 | | | 創設農用地 | 合計 | 特定用途用地 | | | 異種目換地 | 創設非農用地 | | | | | 合計 | 国 | 県 | 市町村他 | 合計 | | |
| | | | | | | 施設土地改良 | その他 | 小計 | | 改良区 | その他 | 計 | | | 宅地 | その他 | 計 | | 農業経営合理化施設用地 | 生活上・必要な施設用地 | 公用・公共用施設用地 | 宅地等 | 計 | | | | | | | |
| 西田原 | 従前地 | 12.4 | 0.5 | 0.1 | － | － | － | － | 13.0 | － | － | － | － | 13.0 | 0.0 | 1.2 | 1.2 | － | － | － | － | － | － | 1.2 | － | － | 0.5 | 0.5 | － | 14.7 |
| | 換　地 | 11.0 | 0.4 | － | － | － | － | － | 11.4 | 1.1 | 0.9 | 2.0 | － | 13.4 | 0.0 | 1.2 | 1.2 | － | － | － | － | － | － | 1.2 | － | － | 0.1 | 0.1 | － | 14.7 |

3　農用地集団化の方針

（第25表-4）

| 換地区名＼区分 | 地帯別・グループ別団地の設定 | 個人別換地の方法 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 位置の選択方法 | １戸当り目標団地数 | 区画畦畔の取扱い |
| 西田原 | 地目別集団化<br><br>農用地利用集積促進区域別集団化 | 水田及び畑・樹園地は、事業計画に示された地目別地帯へまとめて換地する。<br><br>地区内に育成すべき経営体への農用地の利用集積を積極的に図る区域を設定する場合には、当該区域に関係する権利者の承諾を得るようにするとともに、当該区域内に換地が定められることを希望する者は、できるだけ当該区域内に換地が定められるようにする。 | 概ね２～３団地 | 移動畦畔 |

4　非農用地換地の方法

（第25表-5）

| 区分<br>換地区名 | 用途 | 非農用地区域の位置の概略 | 面積（㎡） | 換地の方法 | 換地取得予定者 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 西田原 | 点在宅地等 | 新城市作手田原字坂下 | 436.36 | 特定用途<br>用地換地 | 従前土地所有者 | |
| | 山林 | 新城市作手田原字坂下ほか | 1,774 | 〃 | 従前土地所有者 | |
| | 資材置場 | 新城市作手田原字道上 | 3,326.35 | 〃 | 従前土地所有者 | |
| | 墓地 | 新城市作手田原字堂掛 | 396 | 〃 | 従前土地所有者 | |
| | 農業用施設用地 | 新城市作手田原字坂下ほか | 6,069.42 | 〃 | 従前土地所有者 | |
| 合　計 | | | 12,002.13 | | | |

## 第４節　　土地の評価及び清算の方法

1　評価の方法

項目別配点方式

土地の自然条件及び利用条件等を調査項目とし、それらの条件の比重によって100点を配分して評価採点基準表を作成し、換地・評価委員がその項目内における条件の程度を点数に置き換え、項目毎に採点をし、その合計点数からその土地の等位を定め、その等位から価格を評定する。

2　清算の方法

比例地積清算

従前、換地の評価額に基づき、その事業による価格上昇分を増加額として算出する。それを1㎡当たりの増加額に割り戻す事により各人別に換地交付基準額を算出し、各人の換地評価額を比較し清算する。

## 第５節　　換地計画樹立の年度計画

（第25表-6）

| 区 分<br>換地区名 | 一時利用地の指定予定年度 | 換地計画の決定予定年度 | 換地処分予定年度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 西田原 | 令和　11　年度 | 令和　12　年度 | 令和　12　年度 | |

## 第６節　　換地処分の時期に関する特則

換地区の全部について区画に係る工事が完了し、確定測量が行われたときは、土地改良法第８９条の２第１０項において準用する同法第５４条第２項本文の規定に関わらず、換地処分を行うことができる。

# 第10章　事業費の総額及び内訳

（第26表）

| 区　分 ＼ 事業名 | | 経営体育成基盤整備事業<br>（千円） | | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 事　業　費※1) | | 663,000 | | |
| 事務的経費※2) | | 40,500 | | |
| 計 | | 703,500 | | |
| （関連事業参考） | | | | |
| | | | | |

令和６年度単価。消費税については10％にて算定。（ただし、物価変動により将来変動することがある。）

※1)事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2)事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改Ｄ第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

# 第11章　効　　用

（第27表）

| 事業名 | 区分 ＼ 項目 | 年総効果（便益）額（千円） | 年総増加農業所得額（千円） | うち機能向上分 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 経営体育成基盤整備事業 | 作物生産効果 | 13,797 | 4,479 | 4,479 | |
| | 品質向上効果 | 648 | － | － | |
| | 営農経費節減効果 | 15,434 | 15,802 | 15,802 | |
| | 維持管理費節減効果 | △ 71 | 362 | 362 | |
| | 営農に係る走行経費節減効果 | 3,234 | － | － | |
| | 耕作放棄防止効果 | 368 | － | － | |
| | 地籍確定効果 | 432 | － | － | |
| | 景観・環境保全効果 | 362 | － | － | |
| | 国産農産物安定供給効果 | 2,317 | － | － | |
| | 計 | 36,521 | 20,643 | 20,643 | |

令和６年度単価

＜参考＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| ①当該事業費 | 549,780 千円 | | |
| ②その他費用 | 37,947 千円 | | |
| ③総費用 | 587,727 千円 | | |
| ④年償還額 | － 千円/年 | | |
| ④’うち機能向上分 | － 千円/年 | | |
| ⑤年総効果（便益）額 | 36,521 千円/年 | | |
| ⑥現況年総農業所得額 | 2,841 千円/年 | | |
| ⑦年総増加農業所得額 | 20,643 千円/年 | | |
| 評価期間 | 46 年 | | |
| 割引率 | 0.04 | | |
| ⑧総便益額 | 682,370 千円 | | |
| ⑨総費用総便益比（⑧÷③） | 1.16 | ≧ | 1.0 |
| ⑩総所得償還率　（④÷⑥） | － | ≦ | 0.2 |
| ⑪増加所得償還率（④’÷⑦） | － | ≦ | 0.4 |

# 第12章　関連する事業

該当なし

# 第13章　現況・計画平面図

1　位置図

別紙『計画一般図』参照

2　現況平面図

別紙『現況計画平面図』参照

3　計画平面図及び土地利用計画図

別紙『現況計画平面図』参照

4　主要構造図

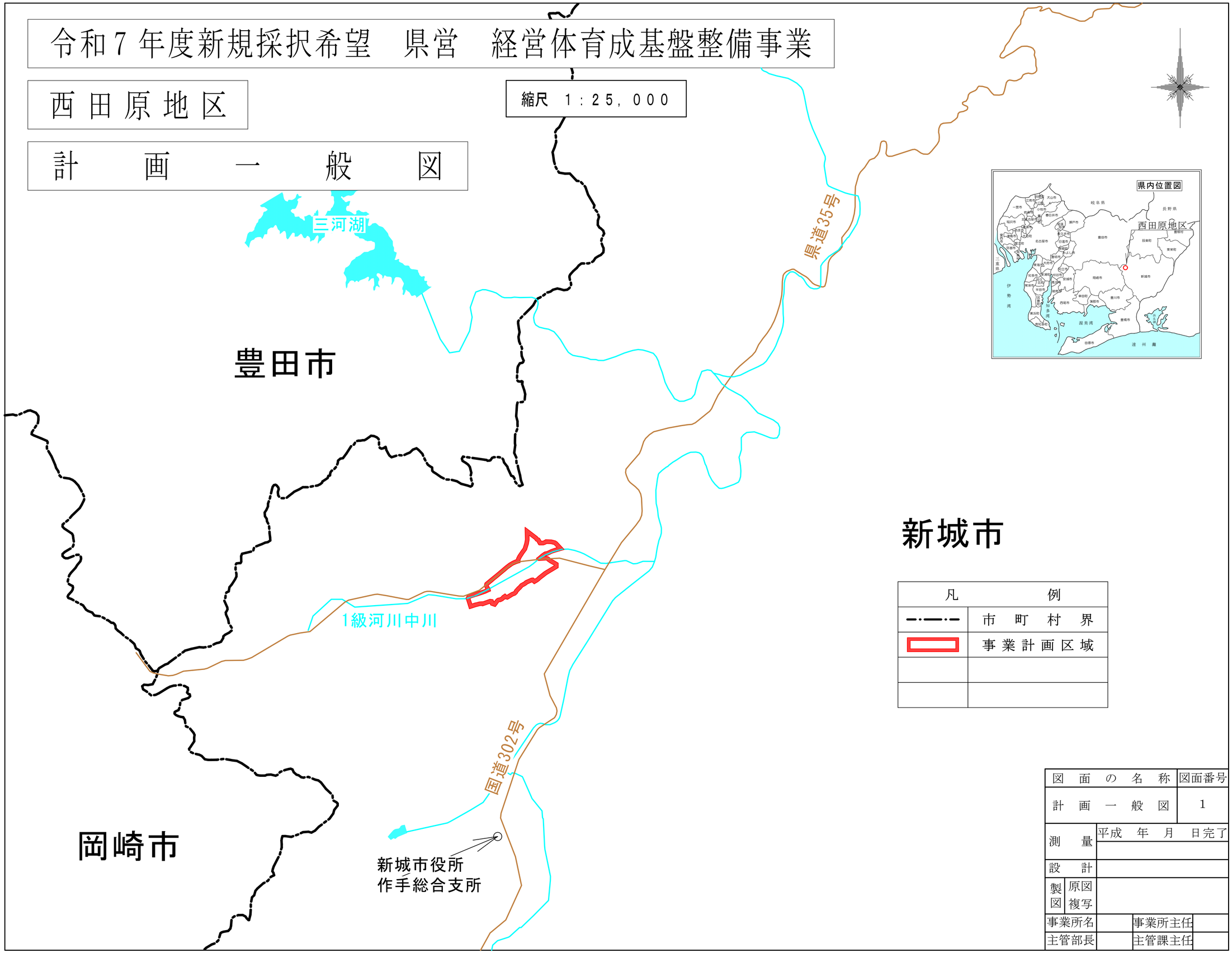
別紙『現況計画平面図』参照

# 令和７年度新規採択希望　県営　経営体育成基盤整備事業

## 西田原地区

## 計　画　一　般　図

縮尺　１：２５，０００



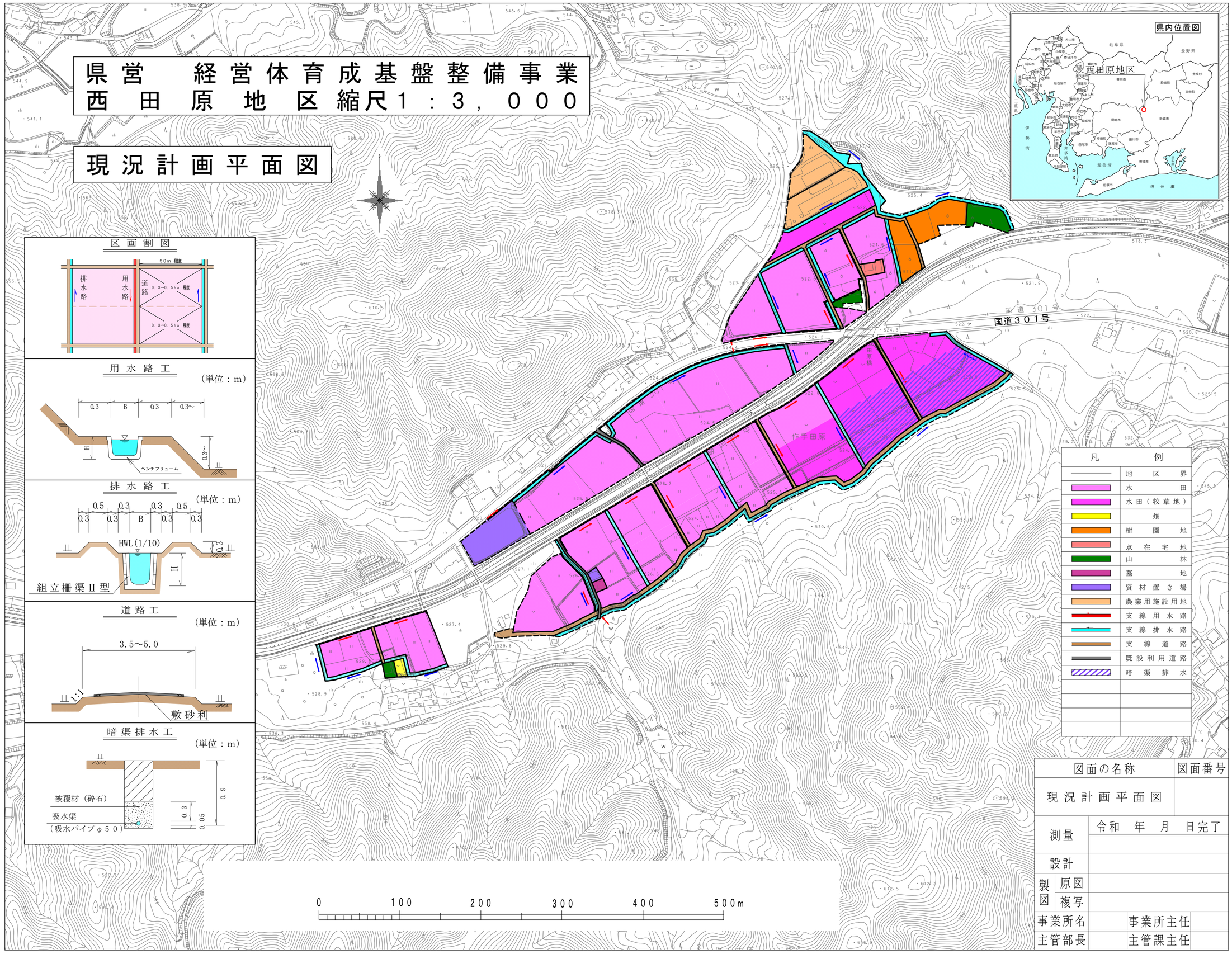

| 凡 | 例 |
|---|---|
| ━･━･━ | 市　町　村　界 |
| ▭ | 事業計画区域 |
| | |
| | |

| 図面の名称 | 図面番号 |
|---|---|
| 計画一般図 | 1 |

| | | |
|---|---|---|
| 測量 | 平成　年　月　日完了 | |
| 設計 | | |
| 製図 | 原図 | |
| | 複写 | |
| 事業所名 | | 事業所主任 |
| 主管部長 | | 主管課主任 |

# 県営　経営体育成基盤整備事業
# 西田原地区縮尺1：3，000

## 現況計画平面図




| 図面の名称 | 図面番号 |
|---|---|
| 現況計画平面図 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 測量 | 令和　年　月　日完了 | | |
| 設計 | | | |
| 製図 原図 | | | |
| 製図 複写 | | | |
| 事業所名 | | 事業所主任 | |
| 主管部長 | | 主管課主任 | |